

先日、国民総幸福度で知られるブータン国王が来日された折、その歓迎会の席で西川福井県知事はブータン国王に「日本で一番幸福度の高い福井県です！」と手を差し出して握手を致しました。

今年から始まった自治体の新指標としての「幸福度」であります。

これは経済力、財政健全化と異なっている自治体のランキングであります。今度の調査で日本一幸福な県は福井、富山、石川の三県が上位となっております。

奇しくも一昨年頃、このFAX通信に「北陸を旅して」一北陸は寒く暗く貧しい地域と思ってきたが、この地方は広い家屋敷を持ち、親子三代、四代が同居して家には祖父母のいずれかが居り、孫や曾孫を守り、家族共働きをするので、一世帯の総所得は日本一であると言う大変豊かな、温かい家族愛を感じる北陸でした一と書いた記憶があり、まさにその通りだったかと驚いております。

北陸三県は地元の中小企業が原動力となっており、地元生まれの社長が多い事とこの地特有の伝統的な織物工芸品を作る技術を生かした元気企業が多い様であります。

その強みもあってか労働、企業、安心、安全部門では障害者工賃月額の高さ1位、障害者雇用率比率2位、完全失業率の低さ2位、離職率の低さ3位、ストレスの低さ5位と極めて高い評価となっており、この評価が高いことは雇用の安心安定となり、生活、治安、社会福祉へと好循環する大きな条件であります。

逆に45位の兵庫県、最下位の大阪府はこの労働環境があまりにも悪い為、出生率、未婚率、持ち家比率、医療、健康、生活、家族環境にすべて連鎖反応して最低の評価となっております。

千葉県は全国33位でありました。

人口面だけから考えますと、県民人口300万人以下の県が幸福度上位20位以内を占めております。

大都市の産業力（GDP、GNP）の規模や豊かさとは異なる満足度、幸福度が求められ始めている事を感じております。

少子高齢化時代の家族共々幸せに暮らす生き方のモデルであります。

今ベストセラーの五木寛之「下山の思想」に、「今、未曾有の時代が始まろうとしている、すでに始まっているのかも知れない私達は気付かなかったのではない。気が付きながら気が付かない振りをしてきた。とんでもない世の中になってきたぞと実感しながら。それを無視してきたからである。しかしその知らぬ振りはもうできなくなった。自殺者は13年間連続で3万人を超えた。私達はすでにこの国が、そして世界が病んでおり、急激に崩壊へ向かいつつある事を肌を感じているからではあるまいか。私達は明治以来、近代化と成長を続けてきた…登山の過程であったと言える。しかし今、この国はいや、世界は下山の時代に入ったように思う。下山の先進国ギリシャ、イタリア、スペイン、ポルトガル、イギリスすべて下山の先進国である。

アメリカも今まさに下山に差し掛かった大国である。

世界は確実に下山していく、新興の巨大国家にしてもそうだ。

一国だけの興亡はあり得ない…」(日経ビジネス：下山の思想を引用)